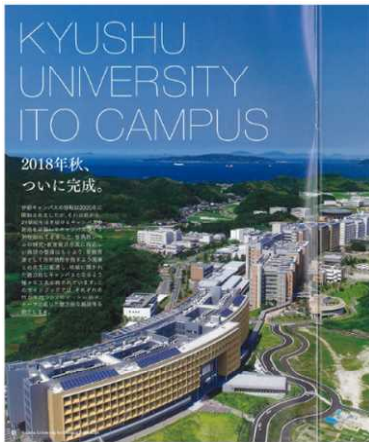




10月9日(水)1年生は九州大学伊都キャンパスを訪問しました。キャンパスの写真は九州大学のパンフレットからです。



初めに、大学院 工学研究院 化学工学部門の井嶋博之教授(玉名高校OB)の模擬講義を受講しました。テーマは、「人工臓器と再生医療工学—代謝の中心『肝臓』—」というもので、最先端の研究内容について、スライドを使い、丁寧にお話しいただきました。

また、九州大学で学んでいる3名の先輩方との交流も行いました。学部学科を選んだ際の話や中学生の頃の勉強についてもアドバイスをいただきました。生徒の皆さんの感想を、ご紹介します。

私は、井嶋先生の講義を聞いて、特に印象に残っているのは、人工的な臓器を開発しているということです。インプラントや義肢があるということは、知っていたけれど、人間の体の中でポンプの役割をする心臓がもうすでに人工的に作られているということにとっても驚きました。今までは、臓器を人工的に作ることにあまり興味を持っていなかったけれど、まだ、だれにも達成できていないことに挑戦し、研究していくのは楽しそうだと思います。

卒業生との交流で、今、勉強している英語が高校で活かされていることや、「順位により、自分に身につけているかが大事」ということを聞き、今、一生懸命に勉強していれば、高校にいかせることが増え、いいことだらけだと感じました。勉強では、大学を見据えて勉強する。大学受験をイメージするなど、たくさんのアドバイスをいただきました。

(1年 木下さん)



卒業生との交流会では、これからしてほしいこと、大事なことなどを教わりました。特に、『自分の気持ち次第でどうにでもなる』という言葉や、『色々なことを経験・挑戦してほしい』という言葉が心に残りました。そして、私は、今まで、順位ばかり気にしていたので、「大事なものは、順位ではなく、その単元が身につけているか」という言葉にハッとしました。また、この交流では、大学は自分の将来を決めるいい場所ということを知りました。



自由散策では、地図を見ても迷いそうなくらい、とにかく広がったです。大学の中を車、バスが通っていて、普通の町の中にいるような感覚でした。学食体験では、大学生と同じように学食で初めて食べました。私は、とり天定食を食べて、「これが大学か・・・」と改めて実感しました。ボリュームもあり、安くてとてもおいしかったです。

最後に私は、この貴重な経験を通して、これからの学校生活にいかせたらと思います。私もいつかは、大学に行くので、この体験が毎日のようにできるとなると、とてもワクワクして、「はやく大学生になりたい!」と思いました。この体験は、玉附生だから、中1でできたのでは?と、少し今の自分に感謝しました。そして、将来のために、自分のために、中学校生活を楽しみ、学びの多い日々をしたいと思います。(1年 柏原さん)

ヤフードーム40個分という伊都キャンパスの広さに圧倒されながらも、自由散策を楽しみ、学食体験では長蛇の列に大学生と一緒に並び、九大生の気分を味わうことができました。 2019.10.18 副校長 山部